

吉野ヶ里こども園の教育・保育とは！？

—子どもの個性が発揮する6月、わらべうた遊び—

園長 山崎立哉

5月は、保育参観、保護者総会を中止としました。保護者の皆様には子ども達の様子を見ることが出来なく大変申し訳なく存じます。しかし、子ども達はいちご狩りや、じゃがいもや玉ねぎの収穫をしてとても楽しい体験をしました。収穫したいちご、じゃがいも、玉ねぎを持って帰って、お家でもその時の楽しい様子を喜んで話したことと思います。その様子は、ホームページのブログで紹介していますのでぜひご覧ください。

6月に入り、3・4・5歳児の子ども達は「仲間に入れて！」の言葉があちこちで聞かれ、友達同士で遊ぶ姿がよく見られるようになりました。子ども達一人ひとりが、自分の好きな友達と好きな遊びをしようとする姿が、その言葉によくあらわれています。

3・4・5歳児は、登園してから10時までの自由遊びの終わりに、わらべうた遊びをしています。先日、うぐいす組の様子を見てみると、担任が「てるてる坊主、てる坊主、明日天気にしておくれ。」と歌い出すと、それまで自由に遊んでいた子ども達が今までの遊びを止め片付け始め、片付けの終わった子から歌いながら円を作り回り出しました。そして、円の中には一人の子がてるてる坊主を手にもっています。歌が1回終わると、てるてる坊主を手にもっている子が円を作って回っている子にてるてる坊主を渡し、円の中に入って、てるてる坊主をもらった子は円の中心に入り役交代をしました。このようにしてわらべうた遊びが続き、だんだん円に入る子ども達が増え、最後は全員参加してのわらべうた遊びとなりました。

わらべうた遊びは、0～2歳までの乳幼児期は1対1で大人と触れ合う遊びの中で「観る力・聴く力・真似する力」を育てていきます。人として生きていくために必要な「感じる心とからだと声、言葉」を獲得していきます。そして3歳過ぎからは、子ども集団の遊びの中で「ルールを守り、楽しく遊び合う心とからだ」を育てながら、社会の中で主体的に能動的に働きかけていける社会人としての力を育てていきます。

このわらべうたは、昔から子ども達に歌い継がれてきた遊びです。誰それが作ったという歌ではなく長い時代を経て人から人へと伝えられた伝承文化です。子ども達にとって無理のないゆったりとしたリズム・音階で大人や友達と歌うわらべうたは、愛情形成など情緒を安定させ、スキンシップにより遊んだ大人との絆が深まります。また、歌と遊びが一体となっており、遊びながら体のいろいろな部分を統合して動かすことにより、身体機能の発達を高めることができます。